

現代の消防車がすごい! 知られざる中身を紹介

市民の命を守るための重要な存在である消防車。2022年2月に仲間入りした消防車は、コンパクトで小回りの利くサイズでありながら、多様な技術、工夫がたくさん詰まっています!

消防職員が動画で
もっと詳しく紹介!



あきたかた2 (水槽付き消防ポンプ自動車)

重さ 7,205kg



高さ 3m



車両中央のタンクには
水が1.5トンも!

「安芸高田」の
「A」をデザイン

幅 1.9m

長さ 5.9m

内部

1台に5人が乗ることができます。地図は消防指令センターと連携しており、効率よくルート検索ができます。



座席の背面に備えられている空気呼吸器は、災害現場で危険な場所へ進入する際に自らの命を守るために装着します。

サイ



吸管は中央に縦置、左右どちらからでも出すことができます。放水は左右それぞれ2か所(計4か所)で可能。

空間を立体的に活用し、消防ホース、ロープ、工具など多くの資機材を積載。さまざまな災害に対応できます。



後部

後部のシャッターを開けると、ホースカーが格納されています。このホースカーには折り畳まれたホースがたくさん入っていて、遠く離れた場所へ水を送りたいときに使用します。



上部



伸縮式の照明装置を搭載。活動する場所を照らし、夜間も安全に活動できます。

3連はしごや二つ折りはしごを収納。3連はしごは建物の3階相当の高さ(約9m)まで伸びます。



安芸高田 歴史紀行

あきたかた
れきしきこう



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 古川 恵子

シリーズ
「博物館コレクション」
第30回

菓子木型

歴史民俗博物館蔵

カメ
(9.8cm×17.9cm)



マイヅル
(9.9cm×18.2cm)



タイ
(21.0cm×43.9cm)



カブとニンジン(またはダイコン)
(9.5cm×24.1cm)



レンコン
(8.1cm×15.0cm)



ビワ
(9.8cm×17.9cm)



菓子木型の中には木型職人の名
と思われる刻印もあります。
左:「保徳」 右:「形清」

ウメ
(10.4cm×18.0cm)



マルダイ
(10.2cm×18.0cm)



歴史民俗博物館の第2展示室では「菓子木型の世界」と題して、安芸高田市の菓子店が近代に使用されていたと考えられる菓子木型を47点展示中です。

菓子木型は、さまざまな形の菓子を均一に作る道具で、干菓子や生菓子などに用いられています。祝儀用としてはタイやエビ・カメ・ツル・松などがあり、不祝儀やお供え用としては蓮や菊、野菜や果物など、多くの種類があります。

この木型は、もち米や麦などの穀物の粉と砂糖、水などを混ぜたものを詰めて打ち出す落雁(らくがん)に用いられましたと考えられます。

砂糖が貴重だった時代、落雁は慶弔時や贈答に幅広く用いられてきましたが、現在ではお盆やお彼岸のお供えや茶菓子が主流となっています。

1928(昭和3)年に発行された「大日本営業別住所入明細図」によると、当時の吉田、甲田、向原の3町だけで少なくとも33の菓子店があったようです(卸売り含む)。